

## 拙速な議員定数削減に反対し、慎重審議を求める陳情書

昨日につづき、15日に大阪市会議長宛てに提出した表題の陳情書を紹介する。写真のように、大阪市役所8階の議員控室で大阪市会事務局職員に陳情書を説明して手渡した。いまや陳情「常連さん」になった。



### [陳情趣旨]

統一地方選のなかで市長選と市議選が行なわれ、新しい市長と市議のもとで、市民生活の充実に向けた市政運営が始まると思っていました。ところが新聞やテレビの報道によると、最大会派の大阪維新の会は、市会の議員定数を現在の81から10前後減らす条例改正案を18日に開会される市議会に提出するという事です。定数を削減して実施された市議選から、1ヶ月も経っていない時に、こんな報道を知り、正直言って驚きました。

なぜ、こんなに拙速な議員定数削減なのでしょう、市民として理解に苦しみます。今回の選挙で就任した横山市長は、4月10日の記者会見で次のように述べています。

「府議会は定数過半数を取った場合、削減や身を切る改革やってきましたので、大阪維新の会の1つの公約の柱ですし、今後、市議会のメンバーと相談しながら考えていきたい」。マスコミ報道によると、削減を「できるだけ速やかに進めてもらいたい」とも発言しています。行政を監視するのが議会の役割であり、その議員定数削減を市長が推進するような発言も、市民として理解できません。

大阪府議会は議員定数削減により1人区が増え、多様な民意を反映できなくなっています。議会がチェック機能を果たさず、行政の「追認機関」になっています。府会の質疑を傍聴して、「追認機関」を実感してきました。

伝統ある大阪市会は、大阪府会のようになっては困ります。大阪市は「成熟都市」として少子高齢化がすすみ、市民も多様な問題を抱えています。多様な市民ニーズに応じていくうえで、市会の役割は大きなものがあり、議員の果たす役割もますます大きくなっています。「身を切る改革」と称して、議員定数削減に走るのは市会の責任放棄にもつながります。

大阪市は他の政令指定市に比べても、議員定数がかなり少ないのが現実です。たとえ定数削減を議論するにしても、本市の現状を正確に把握し、多様な市民ニーズに対応できるかなど、慎重に審議していく必要があると考えます。

### [陳情項目]

1. 大阪市民として議員定数の拙速な削減には反対します。
2. 大阪市会のあり方、議員定数削減の検討に慎重審議を求めます。

(2023年5月17日)